

## 第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

### ①第三者評価機関名

福祉サービス評価センターさが
----------------

### ②評価調査者研修修了番号

SK2024161
SK2024162
HT9-047

### ③施設名等

名称：	洗心寮
施設長氏名：	調 淨信
定員：	32名
所在地（都道府県）：	佐賀県
所在地（市町村以下）：	三養基郡基山町宮浦823-2
T E L：	0942-92-2818
U R L：	<a href="https://www.wago.or.jp/">https://www.wago.or.jp/</a>

#### 【施設の概要】

開設年月日	1945/12/28
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人洗心和合会
職員数 常勤職員：	30名
上記有資格職員の人数：	6名
有資格職員の名称（ア）	社会福祉士
上記有資格職員の人数：	0名
有資格職員の名称（イ）	社会福祉主事
上記有資格職員の人数：	5名
有資格職員の名称（ウ）	臨床心理士
上記有資格職員の人数：	2名
有資格職員の名称（エ）	栄養士
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（オ）	調理師
上記有資格職員の人数：	2名
有資格職員の名称（カ）	保育士
上記有資格職員の人数：	13名
施設設備の概要（ア）居室数：	本体3棟22部屋、地域小規模5部屋
施設設備の概要（イ）設備等：	心理療法室、相談室
施設設備の概要（ウ）：	静養室、地域交流スペース
施設設備の概要（エ）：	地域小規模児童養護施設

### ④理念・基本方針

洗心寮開設者の開設の想い「仏心者大慈悲是也」を体し、洗心寮が目指す「援助・支援（養育）」は、子どもが自分の存在について「生まれてきてよかった」と意識的にも、また、特別な意識はなくてもそのように思うことができること、自信を持てるようになることを基本の目的とします。

### ⑤施設の特徴的な取組

平成24年3月に小舎制に移行し、同一敷地内に4小舎及び地域外に地域小規模児童養護施設1カ所を運営するほか、佐賀県東部地区6市町及び隣接する福岡県の3市のショートステイ事業受託。

### ⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2025/9/1
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2026/3/23
前回の受審時期（評価結果確定年度）	令和4年度（和暦）

## ⑦総評

### 【特に評価の高い点】

○行事映像に見られるこどもの満面の笑顔は、職員や地域社会との深い信頼関係の証です。仏心を体した「生まれてきてよかった」と思える養育環境が、地域小規模ホーム等を含む家庭的な場で具現化されています。

○SNSでの積極的な発信は業界有数の規模を誇り、虐待防止啓発や地域の120世帯への食料支援など、地域支援へのパラダイムシフトを先駆的に実践されています。

○伝統芸能「組み踊り」、CAPプログラムの実施、アドボカシー制度の活用により、こどもの自己肯定感向上と多層的な権利擁護を組織的に図られています。

○個々の個性を尊重した個別支援計画に基づき、学習支援や進路決定へのきめ細かな対話を実践されています。

○人材不足の中でも、月2回の職員会議や「心の研修会」「活力朝礼」等を通じて専門性と意欲を高めており、高い職員定着率が維持されています。

### 【改善を求められる点】

○令和8年度の「児童家庭支援センター」開設を重要なビジョンとし、地域支援機能を強化する中・長期計画の明文化が必要です。今後は数値目標や成果指標を設定し、PDCAサイクルによる定期的見直しを行う仕組みの確立が期待されます。

○安心・安全な養育体制を強固にするため、ヒヤリハット事例の収集・分析を定常化し、組織的なリスクマネジメント体制を構築することが望まれます。

○心理的ケアにおける外部専門家によるスーパービジョンの体制整備や、自立を見据えた個室の整理整頓習慣の定着など、専門的支援と日常生活指導の両面でさらなる質の向上が期待されます。

## ⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

総評で頂いたストロングポイントは今後の運営に活かし凡事徹底していきたい、改善を求められる点に関しては具体的に改善を図るべく取り組んでいきたい。

## ⑨第三者評価結果（別紙）

## 第三者評価結果（児童養護施設）

### 共通評価基準（45項目）Ⅰ 養育・支援の基本方針と組織

#### 1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		第三者 評価結果
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	b
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
【コメント】		
法人理念および施設理念がホームページや広報誌に明記され、外部への発信が行われている。職員に対しては、年1回の「心の研修会」等の場で理念の再確認と深化を図る取組がなされている。今後は、子どもや保護者等に対しても、より視覚的に理解しやすい（イラストや平易な表現を用いた）資料を作成・配布するなど、周知方法のさらなる工夫が期待される。		

#### 2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		第三者 評価結果
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	b
	<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> こどもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設（法人）が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	<input type="checkbox"/>
【コメント】		
地域の福祉計画への参画や、食料支援等の地域支援活動を通じて、潜在的な福祉ニーズの把握に努めている。一方で、経営面においては佐賀県内の定員削減といった環境変化に直面しており、利用率の推移やコスト分析に困惑が生じている状況も見受けられる。今後はこれらの動向を客観的データとして整理・分析し、中・長期計画へ反映させることが望まれる。		
②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	a
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員（理事・監事等）間での共有がなされている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	<input type="checkbox"/>
【コメント】		

経営環境や経営状況は常に理事・役員間で共有され、経営改善に向けた課題は職員会議等で議論されている。理事会においては活発に意見交換が行われて、厳しい指摘を受ける体制がある。今後も抽出された課題に対する具体的な「対応策」について、より組織的かつ計画的な議論を深めていくことが望まれる。

### 3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		第三者 評価結果
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	○
【コメント】		
理念の具現化に向けたビジョンは示されているものの、計画の達成度を測る数値目標や具体的な成果指標の設定が未整備である。施設としては令和8年度の「児童家庭支援センター」開設を重要なビジョンとして位置づけており、これを軸とした中長期的な人員配置や収支の見通しを明文化し、PDCAサイクルの中で定期的に見直しを行う仕組みの構築が期待される。		
②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	
【コメント】		
中・長期計画の内容を反映した単年度計画は、具体的な内容で取り組める範囲から作成されている。今後は、事業計画と収支計画を密接に連動させ、単年度ごとの具体的な成果(アウトカム)を定量的に評価できる項目を盛り込むことが期待される。		
(2) 事業計画が適切に策定されている。		
①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	○
【コメント】		
毎年度の事業計画は、職員会議で協議し、理事会に諮られ作成されているが、評価・見直し等が充分になされるまでに至っていない。今後は、実施された事業実績の把握・評価等を充分に行い、職員等に周知できるような取組が期待される。		
②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	○

	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	○
<b>【コメント】</b>		
事業計画はホームページ等で公開されており、子どもや保護者等に対しては、できるだけわかりやすい形で周知している。しかし、地域住民参加や保護者等積極的な参加がない。今後は、SNS等をより効果的に活用し、子ども達自身の参画意識を高める工夫や、地域住民への積極的な情報提供による理解促進が望まれる。		

#### 4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		第三者 評価結果
① 8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。		a
<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。		○
<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。		○
<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。		○
<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。		○
<b>【コメント】</b>		
ホーム会議ーリーダー会議ー副主任会議ー主任級会議を月1回のペースで実施する事で子どもの意向に適切に答えられるように努めている。個別支援計画については、年2回評価・見直しを行っている。日々のホームでの問題や子どもの様子等の事項は、ホーム日誌に記録されていて、内容については全体会議等で共有している。		
② 9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。		b
<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。		○
<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。		○
<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。		○
<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。		
<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。		○
<b>【コメント】</b>		
経営課題については職員会議等で協議され、話し合い結果を文字化しフィードバックしている。自己評価等の結果を分析し、施設全体として取り組むべき優先課題を明確化した「改善実施計画」を策定し、組織的に改善を進める体制の構築を期待したい。		

## II 施設の運営管理

### 1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。		第三者 評価結果
① 10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。		a
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。		○
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。		○
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。		○
<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。		○

【コメント】  
 施設長は自らの役割と責任について文書化し、研修会・会議等で周知が図られている。また、現場の意向を社会に繋ぐ役割を重視し、広報誌等での発信にも努めている。施設長不在時でも、権限委任等も含めて明確化されている。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者（取引事業者、行政関係者等）との適正な関係を保持している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】  
 施設長はガバナンスの保持のために研修会、勉強会等に積極的に参加し自己研鑽に努めている。福祉分野のみならず、雇用、労働、防災、消費者保護関連法令等の幅広い視点からコンプライアンスの把握に努め、職員への周知と適正な運営をリードしている。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	<input type="radio"/>
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	<input type="radio"/>

【コメント】  
 施設長は、毎朝の職員連絡会での報告を聞いた後に必要な案件の方向を示すように心がけている。また、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努められている。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	<input type="radio"/>

【コメント】  
 施設長は、施設経営の課題や問題点を捉えて職員等と課題解決・問題把握し改善に向けた実効性の向上を目指している。定期的に労務管理等の検討を行い社会保険労務士にもご意見を伺いながら方向を導こうと努めている。今後は人事・労務・財務について十分な分析が行われる事に期待したい。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		第三者 評価結果
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	<input type="checkbox"/>
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	<input type="checkbox"/>
【コメント】 深刻な人材不足に対し、具体的な確保・定着計画に基づき組織的な採用・育成活動を展開している。SNSでの日常的な発信やホームページの刷新により、施設の魅力を積極的に伝えることで人材確保に注力している。月2回の職員会議や「心の研修会」、福利厚生の実施等を通じて職員が意欲的に働ける環境を整えており、安定した人員体制の構築を実現している。		
②	15 総合的な人事管理が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができています。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	<input type="checkbox"/>
【コメント】 人事評価制度の導入に向けた各種研修への参加など、意欲的な姿勢が見られる。現状は「期待する職員像」の共有に留まっており、個々の能力開発や処遇に直結する具体的な制度化には至っていない。今後は、専門性や成果を客観的に評価する人事基準・人事考課制度を正式に取り入れ、職員が将来のキャリアパスを描ける総合的な人事管理システムの早期確立と運用が期待される。		
(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
【コメント】 責任体制を明確にし、心身の健康と安全に配慮した職場環境の整備に努めている。今後は、年間休日数の増加に向けた具体的な計画の実行に加え、定期的な個別面談を仕組み化し、職員がより相談しやすい「組織的な相談・サポート体制」の強化が期待される。		

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	c
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	○
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	

【コメント】

職員の意向や目標について個別に対話する時間が全職員にまでは至っていない。今後、職員一人ひとりの率直な意見、意向及び目標を「目標管理シート」等として明文化し、年度当初・中間の面談を通じて、進捗確認と達成度評価を組織的に行う仕組み（PDCA）を確立することが必要である。

目標

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○

【コメント】

職員研修、カンファレンス・心の研修会などの実施のみならず、活力朝礼を実施する事でより社会人としてのあり方を絶えず研鑽している。しかし、施設が必要とする職員の教育・研修の定期的評価と見直しの取組までには至っていない。今後の取組に期待したい。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	b
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	

【コメント】

施設内研修の機会を確保し、外部研修への参加も職種別に行われている。今後は、スーパービジョン体制（指導・助言の仕組み）をさらに明確に確立し、経験の浅い職員が一人で問題を抱え込まず、組織力として専門性を向上させていく体制の構築が望まれる。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○

	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○
【コメント】 実習受け入れには積極的で基幹職員等で対応している。実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的に取組を行っている。実習事前研修からインテーク研修、事後の振り返りまで継続しての研修等を組んでいる。		

### 3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		第三者 評価結果
① 21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。		a
<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。		○
<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。		○
<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。		○
<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の実存意義や役割を明確にするように努めている。		○
<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。		○
【コメント】 施設の理念や基本方針、活動、事業内容等については、ホームページや広報誌等を活用して公開されている。運営の透明性を確保するための情報公開の体制も整えられている。SNSを通じた日常的な発信力は高く、フォロワー数も業界有数の規模を誇っている。定期的第三者評価の結果も公開されている。		
② 22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。		a
<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。		○
<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。		○
<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。		○
<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。		○
【コメント】 事務、経理等の職務分掌と権限・責任の所在を明確にし、規程に沿った適正な執行体制を構築して職員への周知を図っている。2ヶ月に1回、税理士による専門的な監査や指導を定期的に受けることで、客観的な視点から財務の健全性と透明性を確保している。理事会での厳格な審議や外部知見の活用を通じ、内部統制機能を強化しており、公正かつ適正な経営管理体制を堅持している。		

### 4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。		第三者 評価結果
① 23 こどもと地域との交流を広げるための取組を行っている。		b
<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。		
<input type="checkbox"/> こどもの個別の状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。		○
<input type="checkbox"/> 施設やこどもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。		○

<input type="checkbox"/>	こどもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々のこどものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	(児童養護施設) 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

地域の方々との関係性を大切にし、ボランティア組織あさがおレオクラブを中心に活動を行っている。また、施設内の地域交流スペースを地域の子育てサークル等に貸し出すなど、地域との交流に力を入れている。地域との関わりについて基本的な考え方は文書化されていない。今後の取り組みに期待したい。

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a
<input type="checkbox"/>	ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	ボランティアに対してこどもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

ボランティア受け入れ体制マニュアルが作成されており、基本姿勢も明文化されている。地域との交流、学校との関係性も円滑にして、施設としての役割を示している。ボランティアに対しては、こどもの安全面を保つために必要な研修等も行っている。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
<input type="checkbox"/>	当該地域の関係機関・団体について、個々のこどもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	地域に適切な関係機関・団体がない場合には、こどものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	<input type="radio"/>

【コメント】

こどもの多角的な支援と退所後の継続性を確保するため、医療・教育・福祉等の幅広い社会資源を体系的に把握している。個々の状況に即応できるよう、関係機関を整理した社会資源リストを作成・活用し、職員間で情報を共有している。児童相談所や学校、ボランティア連絡協議会等とのネットワーク強化に取り組み、地域全体でこどもを支える実効性の高い連携体制を確立している。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a
<input type="checkbox"/>	施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	(社会的養護共通) 施設のもつ機能を地域へ還元したり、地域の関係機関・団体との連携等を通じて、地域の具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	(5種別共通) 地域住民に対する相談事業などを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	<input type="radio"/>

【コメント】

地域福祉の拠点としての役割を自覚し、町内の団体長会議や社会福祉協議会の理事等として積極的に各種会合に参画している。地域行事への参加や住民との日常的な交流、地域交流スペースの開放を通じ、地域が抱える潜在的な福祉ニーズの収集に努めている。把握したニーズを食料支援等の公益活動に反映させており、地域社会と密接に連携しながら福祉向上に貢献する姿勢を堅持している。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

児童虐待防止（オレンジリボン）や薬物乱用防止啓発への参画、選挙・消防団訓練時の駐車場開放など、多機関と連携した公益活動を広く実践している。特にNPO等と連携した月120世帯への食料支援（フードパントリー）、鯉のぼり掲揚や交流スペースの貸し出しを通じ、地域に親しまれる「開かれた施設づくり」を積極的に推進している。

### Ⅲ 適切な養育・支援の実施

#### 1 こども本位の養育・支援

(1) こどもを尊重する姿勢が明示されている。	第三者 評価結果	
①	28 こどもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、こどもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> こどもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> こどもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> こどもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> こどもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

こどもの尊重や基本的人権について施設内・外で研修会、勉強会等を実施している。また、倫理要綱や規程など策定し、養護・支援に活かしている。CAP（「子どもへの暴力防止（Child Assault Prevention）」）プログラム等の学習の場でこどもの権利擁護に努めている。

②	29 こどものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> こどものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりのこどもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、こどものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> こどもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

子どものプライバシー保護については、規程・マニュアルを整備し、研修を通じて職員に周知を図っている。居室の死角となる箇所の見直しや設備面の配慮など、こども一人ひとりにとって安心・快適な環境づくりを日々の養育の中で実践しており、継続的な意識向上が図られている。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
①	30 こどもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特徴等を紹介した資料を準備している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	<input type="checkbox"/>

<input type="checkbox"/>	施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	見学等の希望に対応している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	<input type="radio"/>

【コメント】

ホームページによる紹介やパンフレット、しおり等の配布、施設見学や相談への随時対応などと共に、入所に際しても養育・支援に関する内容説明がなされている。保護者や子どもの状況に即した情報の内容、提供の方法について適宜見直しを行っている。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a
<input type="checkbox"/>	子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	<input type="radio"/>

【コメント】

養育・支援にあたり支援内容をわかりやすくした文章やパンフレット等を使い見てわかるような内容にしようと思いがけて作成している。内容についての同意は、子どもや保護者等の自己決定を尊重し、同意書の取り交わしが行われている。児童相談所等の関係機関と連絡を取り合い、子どもや保護者等に配慮した支援が行われている。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	a
<input type="checkbox"/>	養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	<input type="radio"/>

【コメント】

養育・支援の措置変更や地域・家庭への移行にあたっては、NPO法人「ブリッジフォースマイル」と協働して、退寮した子どもや保護者等との関係を良好に保つ取組が行われている。進学・就職後の相談窓口を明確にし、退寮後も子どもたちが孤独にならず、必要に応じて相談できる「アフターケア体制」を充実させている。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者  
評価結果

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a
<input type="checkbox"/>	子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもの意見や要望は、月1回ホーム会議等を通じ把握されている。出来ないこともその理由を分かるように書面化し、対話を通じて理解してもらうように努めている。職員会議等で要望・意見等把握、分析し養護・支援に活かしている。

(4) こどもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料をこどもや保護者等に配布し説明している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、こどもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、こどもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出たこどもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	<input type="radio"/>

【コメント】

苦情・相談解決の体制が整備されており、苦情内容については記録等も文書で管理されている。保護者等に対しては、苦情解決の仕組みについて適切に周知しているとはいえ、今後の取組に期待したい。

②	35 こどもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、こども等に周知している。	a
	<input type="checkbox"/> こどもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> こどもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	<input type="radio"/>

【コメント】

職員はこどもの生活を見守り、養護・支援を実践している。ホーム会議での要望等も日誌等で記録に残して、要望に対する結果をわかりやすくこどもに伝えている。折りに触れて困った時には相談してほしい旨の事を伝えている。

③	36 こどもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、こどもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、こどもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

日頃からこどもの様子を職員で共有し、問題があれば迅速に対応を図るようにしている。第三者のアドボカシー制度の導入を見こしつつ説明責任を果たせる養育に努めている。こどもからの相談や意見、要望、提案等への対応マニュアル等も整備されているものの定期的な見直しは行われていない。定期的な見直しを行い、効果的な仕組みが構築されることに期待したい。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。		第三者 評価結果
①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネージャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> こどもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	
	【コメント】 リスクマネジメントに関する体制の整備、職員に対しての安全確保・事故防止に関する研修を行ない、職員参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。事例の収集等が実施されておらず、事故防止策等の定期的評価・見直しが不十分であることから、今後の取組に期待したい。	
②	38 感染症の予防や発生時におけるこどもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	○
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	○
	【コメント】 感染症対策についての管理体制が整備され、子ども含む全職員に対して周知を徹底し、対策が立てられている。また、担当者等を中心にして感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催されるなど、スキルアップが図られている。	
③	39 災害時におけるこどもの安全確保のための取組を組織的にしている。	b
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策を講じている。	○
	<input type="checkbox"/> こども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 地元の行政をはじめ、消防署、警察、自治会、福祉関係団体、学校、病院等と連携するなど、体制をもって避難訓練等を実施している。	
【コメント】 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために事業継続計画(BCP)を定め、対応体制が決められている。佐賀県児童養護施設協議会において、施設間で連携し事業が継続できるよう検討されている。		

## 2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	a

	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、こどもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	<input type="radio"/>

【コメント】

養育・支援について標準的な実施方法が文書化されており、こどもの尊重や権利擁護、プライバシー保護にも努めている。また、養育・支援内容については、職員同士で共有できる体制が整備されており、質の向上に取り組んでいる。職員会議、研修等でスキルアップを図り、より質の高い養育・支援を目指している。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	<input type="radio"/>

【コメント】

基幹職員を中心として、定期的にこどもの個別支援計画の検証・見直しを組織的に実施している。担当職員は「ホーム会議」等の場を通じてこどもの意向や現場の課題を柔軟に汲み取り、養育・支援の質の向上に努めている。検証を経て集約された意見や改善策は、ケース会議等において職員間で共有・周知されており、個別の支援状況を標準的な支援のあり方（実施方法）の改善へと繋げる仕組みが機能している。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員（種別によっては施設以外の関係者も）が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員（種別によっては組織以外の関係者も）の合議、こどもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	<input type="radio"/>

【コメント】

月1回程度のケースカンファレンスを実施し、こどもの養育支援の課題、問題点などを整理して困難ケースが発生した場合はそちらを優先するなど柔軟に対応している。アセスメント手法については、適切なアセスメントが実施され職員の誰もが共通して理解できるような体制が整備されている。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、こどもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	<input type="radio"/>

	○
--	---

【コメント】

自立支援計画は担当職員が策定し、各部署の役職者が内容を確認する体制がとられている。現在は、計画に沿って適切に養育・支援が行われているかを組織的に評価する仕組みや、緊急時の計画変更に関する具体的な手順の整備に着手している段階がある。今後は、計画の見直しにあたってこどもの意向を丁寧に汲み取り、同意を得るプロセスや、変更内容を関係職員へ確実に周知する手順を明文化するなど、PDCAサイクルとして仕組みを定着させ、支援の実効性をさらに高めていくことが期待される。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 こどもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
	<input type="checkbox"/> こどもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【コメント】

毎朝の連絡会や月2回の職員部会を通じて、横断的な情報共有に努めている。記録はパソコンのシステムで管理され、随時閲覧ができる。今後は、新たな管理システムの導入検討を進められているが、記録の質を均一化し、支援の継続性と評価に直結する活用が望まれる。

②	45 こどもに関する記録の管理体制が確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、こどもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、こどもや保護者等に説明している。	○

【コメント】

こどもに関する記録書類の取扱いについては、職員に対して教育や研修等を繰り返し行い、全職員が遵守するように力を入れられている。個人情報の取扱いについては、こどもや保護者等に説明されている。

内容評価基準（24項目）

A-1 こどもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) こどもの権利擁護	第三者 評価結果	
①	A1 こどもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	a
	<input type="checkbox"/> こどもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> こどもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。	○

<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> こどもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。	<input type="radio"/>

【コメント】

規程・マニュアルを整備し、外部団体による「安心・自信・自由」をテーマとした研修を職員・子ども双方に継続して実施している。子ども向けには発達段階別のワークショップや、毎月のアドボケート（意見表明等支援員）訪問により、自ら権利を学び意見を言える多層的な環境を整えている。過去の事例を教訓とした「隠さない」組織文化の醸成に努め、思想・信教の自由を尊重し保障している。

(2) 権利について理解を促す取組

① A2 こどもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。	a
<input type="checkbox"/> 権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> こどもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 職員間でこどもの権利に関する学習機会を持っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> こども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 年下のこどもや障がいのあるこどもなど、弱い立場にあるこどもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。	<input type="radio"/>

【コメント】

不適切事案発生時は事実を隠さず、本人と真摯に向き合い再発防止に向けた養育を徹底している。職員間では「CAPプログラム」等の研修を継続し、権利尊重の意識を高めている。こどもへも発達段階に応じたワークショップを実施し、自他共に大切な存在であることを伝えている。アドボカシー制度の活用等により、こどもが権利を正しく理解し、意見を安心して表明できる環境を組織的に整えている。

(3) 生き立ちを振り返る取組

① A3 こどもの発達状況に応じ、職員と一緒に生き立ちを振り返る取組を行っている。	a
<input type="checkbox"/> こどもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、こどもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> こども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、こどもの生き立ちの整理に繋がっている。	<input type="radio"/>

【コメント】

こどもの発達状況や保護者の意向を慎重に考慮し、生き立ちの整理に努めている。入所前からの写真や成長記録を丁寧に収集・整理し、こどもが自身の歩みを振り返る機会を保障している。今後は、告知の時期や内容を職員間で共有し、児童相談所等との連携を深めるとともに、告知後の心情変化に対する組織的なフォロー体制を強化し、自己形成を支え続ける取組が期待される。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

① A4 こどもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a
<input type="checkbox"/> 体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがとられている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	<input type="radio"/>

	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自らが訴えることができるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	○

【コメント】

職員・子ども双方に体罰等の程度等、就業規則等の規定に基づいて厳正に処分を行う仕組みが作られている。職員には、不適切な関わりの防止について、会議等で具体例を上げ理解を深め、発見した場合の対応を明文化している。第三者の意見を聞く体制整備も出来ており、通告者が不利益を受けることのない仕組みも整備・徹底されている。子どもには掲示物で示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。

(5) 支援の継続性とアフターケア

①	A5 子どものものであった生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り継続できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更、里親等委託にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	○

【コメント】

入寮時に温かく迎え入れることができるよう職員間で情報の共有が図られている。家庭復帰や施設変更等、退所後のアフターケアについては、子どもが安定した生活を送ることができるよう支援している。

②	A6 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生時の連絡などにも対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	○

【コメント】

退所後の社会生活に向けたリービングケアの支援や退所後の状況の把握に努め整備されている。行政機関や福祉機関等連携を図りながらアフターケアを行っている。退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会設けている。退所者の状況把握に関する記録等は整備されていないことから、今後の取組に期待したい。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	A7 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	a
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	○

	<input type="checkbox"/> こどもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、こどもの心に何が起きているのかを理解しようとしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> こどもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> こどもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	<input type="radio"/>

【コメント】

職員はこどもの生育歴や被虐待体験といった背景を深く理解し、受容的・支持的な態度で一人ひとりの心情に寄り添っている。表面的な言動のみならず、背景にある心理的課題を汲み取る姿勢により、こども達との間に確かな信頼関係が築かれていることがアンケート結果からもうかがえる。今後は、強い感情をぶつけられる職員への組織的なメンタルケア体制をさらに強化し、安定した養育環境を維持していくことが期待される。

②	A8 基本的欲求の充足が、こどもと共に日常生活をいとなむことを通してなされるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> こども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、こどもと職員との関係性を重視している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内でこどもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> こどもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々のこどもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員とこどもが個別に触れ合う時間を確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	<input type="radio"/>

【コメント】

職員がこどもにとっての「良き親（インナーペアレンツ）」のような存在となれるよう、日々の養育を通じた信頼関係の構築に努めている。食事や睡眠等の生理的欲求のみならず、愛情や承認といった心理的欲求を満たす関わりを重視して。生活の決まりについても、一律ではなくこどもの状況に応じた柔軟な運用を行い、主体性を尊重しながら、安心感の中で基本的信頼感を育めるよう組織的に支援している。

③	A9 こどもの力を信じて見守るという姿勢を大切に、こども自身が自らの生活を主体的に考え、営むことができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 快適な生活に向けての取組を職員とこどもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> こどもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> こどもがやらなければならないことや当然できることについては、こども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> こどもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

こどもの発達段階を勘案し、主体性を育む支援を行っている。定期的なホーム会議等を通じ、こども達自身が生活上の課題や企画を考え、自ら生活をつくる実感を持てるよう支えている。職員は適切な距離感で見守りながら、状況に応じた賞賛や励まし、感謝等の声掛けを的確に行い、自信に繋がるよう配慮している。つまずきや失敗も大切な経験と捉え、自ら問題を解決できるよう組織的なフォローに努めている。

④	A10 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、こどもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にあるこどもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> こどものニーズに応えられない場合、こどもがきちんと納得できる説明がされている。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> こどもの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。	<input type="radio"/>

【コメント】

年齢や発達段階に応じたプログラムに基づき、幼児から高校生まで各層に適した玩具や遊具を完備している。モルック等の遊びや、13年続く伝統芸能「組み踊り」の継承を通じ、こどもの興味を広げ、自信や意欲を育む工夫をしている。ボランティアによる学習支援等も活用し、個々の学びのニーズに柔軟に対応している。今後もこどもの主体性を尊重した体験機会の更なる充実が期待される。

⑤ A11 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a
<input type="checkbox"/> こどもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、こどもがそれらを習得できるよう支援している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> こどもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。	<input type="radio"/>

【コメント】

職員との信頼関係を基盤に、日常生活を通じて基本的な生活習慣や社会規範、生活技術の習得を支援している。守るべき決まりをこどもと共に考え、自律的な生活態度を養うとともに、地域活動への参加等で社会性を育てている。発達段階に応じ、身体の清潔や病気予防等の自己管理についても指導を継続している。今後はSNSやネットの適切な利用、電話対応等の技術習得支援についても組織的な取組の充実が期待される。

(2) 食生活

① A12 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a
<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気の中で食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 食事時間が他のこどもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員とこども、そしてこども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況やこどもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

定期的な嗜好調査の結果を栄養計算に基づいた献立に反映し、こどもの好みに配慮した食事を提供している。部活動等で時間が異なる際も、適温提供など柔軟な支援が行われている。アレルギー等個々の健康状態への対応も徹底されている。今後は、調理員確保等の課題に対応しつつ、食材選びや調理体験といった食育を充実させ、食を通じた心の安定と自立支援を組織的に推進することが望まれる。

(3) 衣生活

① A13 衣類が十分に確保され、こどもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理をこどもの見えるところで行うよう配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 衣服を通じてこどもが適切に自己表現をできるように支援している。	<input type="radio"/>

	<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	<input type="radio"/>
【コメント】		
年2回の被服費を準備し、担当職員と個別で買い物に出かける機会を設けている。一括購入や一律支給ではなく、子どもの好みや個性を尊重した選択を支えることで、衣服を通じた適切な自己表現を促している。今後は、洗濯やアイロンがけ、補修等の管理を子どもの見える場所で行うなど、衣習慣の習得に向けた組織的な支援を継続し、自立に向けた意識を高めていくことが望まれる。		
(4) 住生活		
①	A14 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損個所については必要な修繕を迅速に行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	<input type="radio"/>
【コメント】		
子どもが「大切にされている」と実感できるよう、家庭的な雰囲気と個別の居場所確保に努めている。共有スペースは整備されているが、個別の居室については子どもの状況により整理整頓の習慣化に課題が残っている。住環境は安心感と自己肯定感を育む基盤であることから、今後は、自立を見据えた清掃や整理の習慣が身につくよう、発達段階に応じた組織的な指導と働きかけを継続していくことが期待される。		
(5) 健康と安全		
①	A15 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	
【コメント】		
医療機関と連携し、アレルギーの把握や服薬が必要な子どもへの適切な管理を行っている。日々の健康状態や薬歴は職員間で共有されているが、専門知識を深める組織的な学習機会の確保には至っていない。今後は、服薬の必要性への理解促進や心理的な健康への配慮も含め、職員の知識を深める研修等を定期的に行い、心身両面から子どもを支える健康管理体制をさらに充実させていく取組が期待される。		
(6) 性に関する教育		
①	A16 子ども年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	<input type="radio"/>
【コメント】		

いのちの教育の一環として性教育を位置づけ、プログラム実施や行事を通じ成長の喜びを共有している。性をタブー視せず、こどもの不安や疑問に真摯に答え、自他の性を尊重する心を育てている。今後も外部講師の活用や年齢別カリキュラムの整備をさらに進め、将来の自立と共生を支える正しい知識を組織的に提供し続ける取組が期待される。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A17 こどもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があったこどもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲のこどもの安全を図る配慮がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、こどもの行動上の問題の軽減に寄与している。またこどもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	○
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	○

【コメント】

不適切な行動に対し人格を否定せず寄り添う姿勢は堅持されている。一方、事象の要因分析や組織的な立て直しには改善の余地が見られる。今後はコンサルテーション等の外部知見を活かし、表面的な解決に留まらない、問題の本質に踏み込む深化が期待される。暴力を受けた職員へのメンタルケアも含め、全職員が一丸となって再発防止と環境改善に取り組むことが望まれる。

②	A18 施設内のこども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、こども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 課題のあるこども、入所間もないこどもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、こどもがそれを感じ取れるようになっていく。こども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	○
	<input type="checkbox"/> こども間の性的加害・被害を把握し適切に対応している。	○

【コメント】

施設全体で緊張感をもち、暴力やいじめ、差別の未然防止に努めている。大人同士の信頼関係をこどもが感じ取れる環境を基盤とし、発生時は施設長・副施設長を中心に組織的に対応する体制が整っている。性的加害・被害の把握時は速やかに児童相談所等と連携し、二次被害の防止に向けた専門的ケアと適切な情報共有を徹底している。今後も組織的なガバナンスを堅持し、こどもの安全を最優先した環境の継続が期待される。

(8) 心理的ケア

①	A19 心理的ケアが必要なこどもに対して心理的な支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とするこどもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要なこどもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となるこどもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	○

【コメント】

職員間の情報共有体制は整っているが、心理的ケアの更なる専門性向上が求められる。現在は、心理療法担当職員を中心に支援を行っているが、外部専門家によるスーパービジョンを定期的に受けるための費用や勤務時間等の具体的な体制整備が課題である。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A20 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	○

【コメント】

個別スペースや学習室を整備し、静かに学べる環境を整えている。現在は「安心・安全な生活基盤」の確立を優先し、伝統芸能「組み踊り」等の成功体験を通じて自己肯定感を高め、自発的な学習意欲を育む段階にある。今後は、学校やボランティア等の外部資源と一層連携を深め、個々の学力やニーズに即したきめ細かな個別支援体制を構築し、学習習慣の定着に向けた取組の強化が期待される。

②	A21 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 児童自立生活援助事業、社会的養護自立支援拠点事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	
	<input type="checkbox"/> 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、積極的に措置延長を利用して支援を継続している。	○

【コメント】

進路決定に向け、本人や保護者、関係機関と連携し、判断材料を提示して対話を重ねている。将来の資金面や生活設計のシミュレーションを行い、奨学金等の経済的支援の情報提供にも努めている。退寮後のフォロー体制は整備の途上であるが、ブリッジフォースマイル等の外部機関と協働し、アフターケアに注力している。今後は、失敗時も支え直せる組織的体制を定着させ、自立を支え続ける取組が期待される。

③	A22 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	○
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	○

【コメント】

アルバイト等を通じ、社会のルールや自己責任を学ぶ機会を設けている。職員は金銭管理のシミュレーションやメンタル面の支援を行い、こどもの自立に向けた準備を支えている。学校と協働した取組を継続しつつ、今後は施設独自の体験先の開拓や協力事業主とのネットワーク構築をさらに強化し、社会経験の幅を組織的に広げていく取組が期待される。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A23 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所がこどもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れこどもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後のこどもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> こどもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	○

【コメント】

家庭支援専門相談員を中心に、保護者へ支援方針を丁寧に説明し、こどもの成長を共に支える信頼関係を構築している。児童相談所等の関係機関と密接に連携し、施設全体で家族関係調整や相談支援に組織的に取り組んでいる。一時帰宅等の際は、事後のこどもの様子や変化を職員間で詳細に共有し、安全確保と適切な支援に繋げている。行事情報の提供等、家族がこどもの生活を共有できる体制も整えている。

(11) 親子関係の再構築支援

①	A24 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	○

【コメント】

家庭支援専門相談員を中心に、児童相談所や学校等の関係機関と密接に連携し、組織一丸となって親子関係の再構築を支援している。ケースの見立てに基づき支援方針を定め、面会や外出、一時帰宅等を通じて家族の養育力向上や関係修復に注力している。専用の訓練室はありませんが、丁寧な家庭間調整により個別の状況に即した柔軟な支援を展開し、こどもの最善の利益にかなう家庭復帰や関係維持を推進している。